

令和4年度 学院関係者評価委員会報告書

中通高等看護学院

令和4年度の自己点検・自己評価結果をもとに、学院関係者評価を実施しましたので報告いたします。
なお、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、書面でご意見ご助言を頂きました。

学院関係者評価委員（3名）

実習施設 実習指導者 2名
同窓会代表（卒業生） 1名

令和4年度 自己点検・自己評価に対する学院関係者評価委員のご意見、ご助言、感想等

意見・感想等	
I. 教育理念・教育目的	<ul style="list-style-type: none">・2022年度のカリキュラム改訂後、教育理念に「学び続ける力」「考える力」「行動する力」「センシング力」の4つの必要な力が明記され、学生便覧やシラバスで学生の指針が明確となり、実習指導者等が共有されているのは、良いと思います。・教育理念・目的に対する、学生観が明確になると、育成側のサポートも明確になると感じます。・設置主体である明和会の理念と連動しており、実習中の学生の言動や行動からは教育理念や教育目的が意識づけられている様子が伺えていました。・教育理念、教育目標は自己評価が年々高くなっている傾向にあると思います。新カリキュラムに沿った理念、目的を意識できており、社会医療法人明和会に留まらず、今後の医療に求められる内容も反映されると更に具体性に繋がると思います。
II. 教育目標	<ul style="list-style-type: none">・新カリキュラムとなり、教育目標の表現も「～できる」とゴールを読み取れる表現となり、目標が明確になったと思います。・中通総合病院の看護師要件やキャリア開発ラダーに繋がる教育目標の設定となっており、入職後の職員教育に対する継続性が強化されたと感じます。・在学中から意識づけされやすい目標になっているので、卒業後も継続できる目標に設定されていると思います。・3年間の在学の中で学生が到達しやすいレベルのものであると考えます。
III. 教育課程経営	<ul style="list-style-type: none">・カリキュラム改訂に伴い、「看護リフレクション」「臨床推論」「地域の理解」など新たな科目を加える等、地域や社会の状況や要請に応えるために、科目や単元の見直しを進めており、適切に評価されていると思います。・実習施設との打ち合わせや指導者会議などが定期的に開催され、指導者と教員の役割の明確化や協働体制の整備に活かされていると思います。・秋田県開催の「実習指導者講習会」へ毎年1名の参加実績があり、実習指導者研修会等で研修修了者を活用できる機会をつくりたいと考えています。・各実習の指導案や指導計画が細かく記載されています。更に、実習前後の打ち合わせや会議が教員と指導者の意見交換の場となっており、十分協力体制が整えられているこ

	<p>とを実感しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たに加えられた8科目は様々な臨床の場でも挙げられるキーワードであったり課題と感じる内容のため、地域をより意識した構成になっていると思います。 コロナ禍の実習であり、実習先の施設でクラスター発生もありましたが、教員の迅速な判断と領域別の実習での最低限必要な看護実践を行える環境を整えたことで学生にとって少しでも充実した実習生活を送れたと思います。
IV. 教授・学習・評価課程	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の場合、看護師国家試験の出題基準に沿っているか、他の講師と授業内容に重複がないかなど、事前に確認・共有できる場があれば良いと考えます。 プロジェクト学習の場に、病院スタッフを参加させて頂き、学習内容を共有していますが、入職後に継続して学びを活かすことのできる仕組みを考えていきたいと思っています。 全体的に自己評価が高く、看護師国家試験の出題基準を意識した授業内容が展開されていると思います。 実習期間の中間で自己評価を学生自身で行ってもらうことで、実習中に自己の課題や達成感を確認でき、質の良い充実した実習ができていると思います。 学生が主体的に様々な知識や技術を身につけるため、授業形態が工夫されていると思います。
V. 経営・管理課程	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業やデジタルテキストの活用など、ICT教育の推進が図られており、環境の変化に対応した施策を進める事が出来ていると思います。 設置者の意見・指針や組織体制における意思決定システムについての周知が十分でなく、課題である事がわかりました。 経営基盤の安定化のためにも、学生の確保は重要であり、奨学金制度の充実やスクールカウンセリングの実施などの取り組み状況が理解出来ました。 看護を学ぶ上で必要な教材や物品が十分に備えられていると感じます。 教材を電子化されたことで時間を有効に活用でき、調べたい項目をすぐに検索できる利便性があるが、学生自身、様々な教材を活用し幅広く調べることの重要性に気付けなくなっていることを感じるので、書籍での調べ学習も継続できる機会を設けたい。 建物の老朽化に不便を感じている学生もいたので、体調管理できるような環境を整えてほしい。 ホームページ等で様々な情報を発信しており継続してほしい。 保護者とも連携する体制が整えられており、学生も保護者も安心だと思います。
VI. 入学	<ul style="list-style-type: none"> 募集要項や進路ガイダンスで、アドミッションポリシーを伝え、入学者選抜を実施していると思います。 入学者選抜方法の妥当性や教育効果からの視点での分析が、今後の課題である事がわかりました。 教育理念、目的に沿って入学選抜を実施していると思います。 自己評価が高く、質の高い学生が確保できているので、入学選抜方法は妥当であると考えます。

	・看護師を目指す仲間同士で高めあいながら学び続けられる学生を引き続き選抜してほしい。
VII. 卒業・就職・進学	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時の到達状況の総括はしていますが、経時的な分析がされていず、今後の課題であることがわかりました。 ・卒業生の看護実践の評価や問題点の明確化がされていない状況を理解する事が出来ました。入職後に活用するキャリア開発ラダー等の評価表を活用し、情報共有し改善活動に繋げられるよう、協力していきたいと思っています。 ・常に国家試験を見据えた講義、実習が行われ、ポイントを押さえられて意識付けされていると思います。 ・就職してからも自己の目標を持ち続けられるよう、キャリア支援に繋げたいと思います。 ・就職後に悩みを抱え込んでしまう場合もあるため、卒業生の就職先との情報共有・連携をしていくことで今後の教育・指導にもつながっていくと思います。
VIII. 地域社会/国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムの地域在宅看護論をもとに、臨床実習の場で実践されている退院支援から学びを深め、地域の特徴やニーズの把握に役立ててほしいと思います。 ・医療英語を学ぶ内容の国際看護の授業が実施されている事が、わかりました。英語以外の言語の対応が必要な場面では、翻訳機器を活用し対応している現状もあり、より多角的な視点での学習の必要性があると感じています。 ・コロナ禍で限られた範囲ではあったが、コロナ前同様に臨床実習の場で実際に体感し、地域社会と関連付けられる機会を継続できたので良かったと思います。 ・地域との連携や交流は、ニーズの把握やコミュニケーション能力向上にもつながる機会になると思います。学院を含め、明和会施設の周辺には様々な年代の方を有する施設や地域活動が行われている特徴があるため、活用して地域医療・看護を学ぶ機会に繋げてほしいと思います。
IX. 研究	<ul style="list-style-type: none"> ・研究活動を助言・検討する体制が整えられていない現状がわかりました。中通総合病院教育委員会の査読担当者を活用していただき、体制整備に協力していきたいと考えています。 ・自己評価が低いため、研究という形でなくでも、教員相互で支援できる機会があるとよいと思います。 ・先生方の看護や看護教育に関する考えはとても参考になります。研究のための時間確保はすぐに改善は難しいことではあるが、研究に取り組みやすい環境を可能な限り整えてほしいと思います。